



全日病 S-QUE 看護師特定行為研修

臨床薬理学

共通科目



2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習／3.主要薬物の相互作用の理論と演習

精神神経系 演習

産業医科大学病院薬剤部

井手 健太 氏

主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習

臨床薬理学 演習：精神神経系

産業医科大学病院薬剤部
井手健太

1

本日の内容

目標

- 精神神経系の治療薬の特徴を理解し、臨床の場での適切な対応を考えることができる

内容

- 症例提示を行い、精神神経系の治療薬の知識を整理する

2

症例 1

60歳男性 統合失調症 喫煙歴あり

- 30歳で統合失調症を発症し、過去には入退院を繰り返していた。ここ数年、病状は落ち着いており、Aクリニックへの外来受診とデイケアへの参加で問題なく過ごせていた。
- 先週受診時、長年吸っていた紙巻たばこを禁煙したが、それ以降、眠気からデイケアへの参加が休みがちになった。処方内容は直近3ヶ月変更無し。

【処方内容】

ジプレキサ®20mg (オランザピン)	1回1錠	1日1回 就寝前
サイレース® 2mg (フルニトラゼパム)	1回2錠	1日1回 就寝前
デエビゴ®10mg (レンボレキサント)	1回1錠	1日1回 就寝前
³ デパス®1mg (エチゾラム)	1回1錠	1日3回 毎食後

問題

1. 眠気の原因を推察してください
2. 精神神経系の治療薬で相互作用に注意が必要な薬剤を列挙してみましょう

症例 2

80歳 女性 アルツハイマー型認知症

- ・ 物忘れを主訴に入院。既往に脳梗塞があり症候性てんかんに対してイーケブラ®が投薬されている。
- ・ 入院後、アルツハイマー型認知症に対してアリセプト® 3mgが開始された。
- ・ アリセプト®開始から4日後、夜間に易怒性の亢進がみられ、保護室へ入室となった。同日、アリセプト®は中止となった。

【処方内容】

アリセプト®3mg (ドネペジル)	1回1錠 1日1回 朝食後
バイアスピリン® 100mg (アスピリン)	1回1錠 1日1回 朝食後
ノルバスク®5mg (アムロジピン)	1回1錠 1日1回 朝食後
イーケブラ®500mg (レベチラセタム)	1回2錠 1日2回 朝夕食後

9

問題

- ・ 易怒性の原因を推察しましょう
- ・ 認知症の行動・心理症状（BPSD）及びその対応について再度考えてみましょう

10